

NDC News (No 10)

2104年6月22日

目次

1. 平成 26 年度幹事会が開催されました
 2. 会誌のバックナンバーをPDFにし保存します
 3. 府大トピックス
- ① イヌのiPS細胞を使って血小板を作ることに成功
.....

1. 平成 26 年度幹事会が開催されました。

5月24日(土)平成26年度NDC幹事会が、府大なんばキャンパス「Isite なんば」で開催されました。参加者は46名。原案通り承認されました(議案書はHPに掲載予定)。同時に、下記の新役員が、選出されました(アンダーラインの方は留任)。

会長 中辻悦郎(電子6期)、

副会長 山下勝己(電気修51年)、杉野俊夫(電子7期)堀 道明(電子10期)、

編集理事 池本 豊(電子7期)、福井高生(電子7期)、岩田 基(情報修平10年)、松山哲也(電物1期)、

庶務理事 梶野昌利(電気17期)、

庶務及び会計理事 小山長規(電シ3期)、沈 用球(電物修平10年)



(新理事を紹介する藤田会長)

・幹事会に引き続き、34名の参加の下、懇親会が行われ、情報交換が賑やかに行われました。

2. 会誌のバックナンバーのPDF化を実施中

浪速電気倶楽部創刊号から中百舌鳥電気クラブ第48号までの「会誌のPDF化と残部の破棄」が幹事会で承認されPDF化を開始しました。これにより、長い歴史を誇るNDCの会誌を劣化させずにDVDに保存出来、またバックナンバーの保管のための大きなスペースと労力が不要になります。会誌のPDFのHPへの掲載については、「個人情報保護法に配慮し一部抹消したPDFを掲載すべきかどうか」検討中です。

3. 府大トピックス

① イヌのiPS細胞を使って血小板を作ることに成功

日本経済新聞によると、府大の稲葉教授らは、イヌのiPS細胞を使って血小板を作ることに成功したと報じた。イヌの皮膚の中にある線維芽細胞に、4つの遺伝子を組み込んでiPS細胞を作製イヌ向けの成長因子を見つけて造血幹細胞に誘導し、さらに血小板に育てた。安全性の確認など許認可に時間がかかる人間よりも先にペットや家畜で最先端の医療技術がつかわれることが多い。稲葉教授は「人での再生医療にも応用できるはずだ」と話している。

② 超小型衛星 OPUSAT 愛称:「こすもず」(CosMoz) が宇宙へ

府大「小型宇宙機システム研究センター(SSSRC)」が開発した超小型衛星 OPUSAT が去る2月28日、種子島宇宙センターよりH-IIA ロケットで種子島宇宙センターから打ち上げられた。

2013年6月から8月にかけて OPUSAT の愛称を募集し、113件の応募があり、その中から、開発メンバーによる話し合いの結果、「こすもず(CosMoz)」に決定した。

OPUSAT は、次の2つの目的をもっている。

- 1) リチウムイオンバッテリーとリチウムイオンキャパシタという二つの電源装置を組み合わせた新しい蓄電デバイスを宇宙で実証
- 2) 大きな電力を獲得する衛星システムを宇宙で実証

詳細は SSSRC ホームページ (以下) を参照。

URL: (<http://www.sssrc.aero.osakafu-u.ac.jp/projects/OPUSAT/home.html>)

NDC News は、次号から副会長 堀 道明が担当します。

(文責 中百舌鳥電気クラブ 前副会長 松村統夫、副会長 堀 道明)、